

厳冬期避難所展開・宿泊演習 2023 実施要領

日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター

根本 昌宏

1. 開催趣旨

日本赤十字北海道看護大学は、冬期に災害が生じた際の対応策を実践的に明らかにすることを目的に研究を推進しています。冬期の停電を伴う災害は既存の暖房機器を使用不能とし、避難所として指定されている場所においても低温により命を落とす恐れがありますが、避難所運営マニュアルを含め冬期の避難所対策は厳しい現状です。10 回目の実施となった厳冬期避難所展開・宿泊演習 2020 (通称：厳冬期災害演習 2020) は、北海道防災総合訓練 (厳冬期) と同時開催し、キッチンバスを始めとする大規模な機材の検証を実現しました。しかしながら、この直後から発生した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) により、演習は 2 年間中止を余儀なくされました。

本年 7 月、北海道から公表された日本海溝・千島海溝巨大地震津波の被災想定には、冬の発災により多数の犠牲者が出る可能性が示されています。COVID-19 下においても災害は待ってくれません。感染症対策を施した“冬期の”避難所展開については検証が必要とされている項目が多数存在します。そこで 2022 年度は、感染症対策も踏まえて、下記に掲げる項目について 2 日間にわたり検証を行います。

2. 開催要領

1) 日時・場所

2023 年 1 月 21 日 (土) 13 時 00 分 ～ 1 月 22 日 (日) 12 時 00 分

定員：100 名 (公募とせず、機関指定制)

日本赤十字北海道看護大学 体育館、屋外

(北見市曙町 664 番地 1 電話 0157-66-3311)

2) 主催：日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター

共催：日本赤十字社北海道支部、日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

後援：国土交通省北海道開発局網走開発建設部、北海道オホーツク総合振興局、北見市
避難所・避難生活学会、日本防災協会、日本難燃材料研究会

3) 厳冬期災害演習 2023 の検証内容

- ①低体温症を予防するための施策・評価 (内容については事前公表いたしません)
- ②ダクトヒーター暖房による温熱ならびに換気性能評価
- ③パーティションの大規模展開による感染症対策避難所検証
- ④新開発クイック段ボールベッドの設営評価
- ⑤電源系車両による避難所内暖房・照明持続試験
- ⑥避難所生活資材防災性の評価
- ⑦その他

4) 参加者

公募は行いません。指定する赤十字等医療関係者、関連自治体防災担当者、大学関係者、資機材関係業者のみとします。

5) 感染症対策

- ①ワクチンを3回以上接種し、最終接種日が10月以降の方に限ります。
- ②不織布マスクを常時着用してください。
- ③発熱・咳症状等がある場合には参加をご遠慮ください。
- ④個人の上履きを使用してください。
- ⑤校舎入退室時はアルコール消毒を徹底してください。
- ⑥名簿管理ならびに個人の行動履歴管理を行います。

6) 本演習の公表

本演習は成果を広く防災関係者ならびに寒冷地域に暮らす市民に周知するため、新聞、テレビ等すべてのメディアに公開・公表します。メディアの皆さまについても感染症対策を遵守してください。

7) 問い合わせ先

本演習に関するお問い合わせ先

日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター

電話 0157 (66) 3311 FAX 0157 (61) 3125

メール bousai@rchokkaido-cn.ac.jp